



久茂地川と安里川の分岐点
崇元寺橋付近で、安里川は右側へ、久茂地川は左側へ流れる。久茂地川はその後、十貫瀬橋付近でガープ川と合流し、明治橋付近で国場川に合流する。



さいおんスクエア(安里川親水公園)
平成23年オープン。地区内を大きく蛇行して流下していた安里川の流れを緩やかにし、断面積を広げた。水辺に近づく、ウナギ、カニ類、ミナミトビハゼ等の豊かな生態系が観察できる。琉球王国時代の政治家・土木技術者である蔡温の名を冠した蔡温橋のたもとにある。



指帰橋(さしかえしはし)
松川にある、真嘉比川との合流地点。琉球王国時代、安里川に架けられた「指帰橋(サシケーシバシ)」の名称を受け継いだ橋。かつて、この辺りまで小舟が行き来していたといわれている。



真嘉比遊水地
安里川下流域でたびたび発生していた浸水被害の軽減のため建設され、平成13年度に完成。かつては「マカンジャラ」と呼ばれる河原で、田芋が生産されていた。

安里川に生息する多様な生物



ダイサギ (撮影 嘉手苺有浩氏)



ゴイサギ (撮影 嘉手苺有浩氏)



カワセミ



ロウニンアジ



ヤイトハタ



ボラ



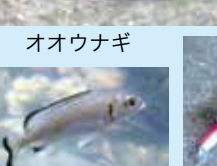
ユゴイ



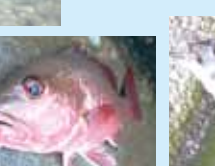
ホシミゾイサキ (撮影 嘉手苺有浩氏)



クロホシマンジュウダイ ※ヒレに毒あり



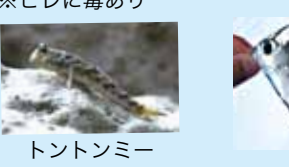
クロダイの仲間



ゴマフエダイ



ミナミクロダイ



トントンミー



ヒメツバメウオ



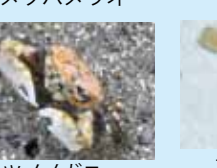
ギンガメアジ



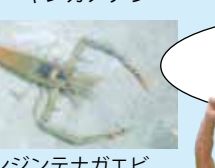
モクズガニ



オオメジロザメ ※かまれる危険あり



ツノメガニ



コンジゲンテナガエビ

二級河川 安里川 基本データ

延長……………7.26km
流域面積……………8.86km²
支流……………真嘉比川



泊港(河口)
利便性の良さから、13～14世紀に多くの船が出入りし、にぎわいを見せた。19世紀以降、イギリス・フランス・アメリカ・ロシアなどの欧米諸国の艦船が来船するようになると、薩摩藩の在番奉行所など主要施設が集中する那覇へは入港させず泊港を使用したため、泊港は外国人の上陸地となった。

マナーを守って釣りを楽しもう



- 注意事項**
- ・釣り糸のくずを含め、発生したゴミは必ず持ち帰ってください
 - ・希少種を釣った場合はすみやかにリリースしてください
 - ・車両や通行人との事故を防ぐため、常に周囲確認を心がけてください

安里川は世界一おもしろい川

安里川の魅力は、なんとと言っても街中の小さな川に多くの種類の生き物が集まっていることですね。コンクリートジャングルの川ですが、西表島のマングローブ林に生息する魚の多くが安里川にも生息しています。

安里川にドブ川というイメージを

安里川の魅力と課題

安里川ファンクラブの活動内容は主に次の3つです。

まず1つ目は、安里川の魅力を発信すること。

2つ目は、釣り人への啓発活動です。釣り教室や勉強会などを企画し、安全管理や釣りのマナー、生態系とのつながり、環境負荷を減らす釣り方などを教えています。

3つ目は清掃活動です。沖縄県河川愛護団体に加盟し、定期的な清掃活動を行っています。

趣味の釣りがきっかけで立ち上げ

私は釣りが好きで、安里川でよく釣りを楽しんでいます。沖縄の釣りといえば海が目ざれがちですが、海へ栄養を運ぶ川は、魚が集まる場所になっているので、いいポイントになっています。

一方、釣り人による事故やゴミの投棄、漁業者や近隣住民とのトラブルも発生し、釣り禁止となる場所などが増えています。これ以上、釣り禁止の場所が増えないよう、自分たちも行動しようと考えて、釣り仲間を中心に安里川ファンクラブを結成しました。

安里川の達人に聞く！ 安里川ファンクラブ 高嶺 太一 会長



持っている人もいますが、水質が良くなったことで多くの生き物が戻っています。私たち釣り人からすると宝の川であり、予想外の魚が釣れるびっくり箱でもあります。個人的に、安里川は世界一面白い川だと思っています。

那覇市民のみなさんに伝えたいこと

まず1つ目は、ゴミのポイ捨てに関する事です。道路に捨てたゴミは雨風で川へ流れ、最後は海に行きつきます。ご年配の方でもタバコの吸い殻を道路側溝などに捨てる姿を見かけます。これを見た子どもたちは、ポイ捨てに対して無頓着になるのではないのでしょうか。ウチアタイした人は携帯灰皿を持つなどいただきたいです。

2つ目は、事故防止の観点からお願いです。都市河川はちよつとした雨で増水し鉄砲水になりやすいので、むやみに川に下りない事。利用する時は必ずライフジャケットを着用してほしいです。ライフジャケットは釣り人には当たり前の装備ですが、まだまだ着用率が低いのが現状です。

安里川に限らず那覇の川は驚きと発見にあふれています。ソーシャルディスタンスを保ちながら、お散歩や観察などを楽しんでいただければと思います。



令和2年12月の清掃活動